



相当単位数合計		8 単位	18 単位	16 単位	14 単位	16 単位	20 単位	92 単位			
M2 M1	通年	● 必修科目 ※ 2年次配当科目	インターンシップ 2	● ロボティクス&デザイン 工学特別研究(2通年) 4	● 文献研究(2通年) 4		建築インターンシップ (※)	14 単位			
	4Q		(1~2年次) グローバルテクノロジー 特論a 1 グローバルテクノロジー 特論b 1	国際標準化論 2	知能ロボティクス論 2	知能化システム論 2	人工現実感論 2	22 単位			
	3Q	アカデミックライティング 2			メカトロニクス特論 2	ライフサポート ロボティクス論 2	プロダクトデザイン 特別演習Ⅱ 2	情報デザイン特論 2	14 単位		
	2Q				計算機シミュレーション 論 2	ヒューマンセンシング論 2	インテリアデザイン特論 2	デザイン方法特論 2	24 単位		
	1Q	アカデミックライティング 2			アクチュエータ特論 2	制御工学特論 2	ソフトロボティクス論 2	マルチモーダル インタラクション論 2	18 単位		
分 野		学 際	専 門 共 通	ロボティクス	システムデザイン	プロダクトデザイン	建築デザイン	年間履修上限単位数 なし			
カリキュラム ポリシー		博士前期課程での学修は、学士課程教育での学習成果を踏まえて、より高度な専門性とともに高い倫理性、他分野技術に対する幅広い理解を目指すカリキュラムを編成する。開講する科目を「専門」、「専門共通分野」、「学際分野」の3分野に区分し、これらの科目単位の履修によりディプロマ・ポリシーの達成を目指す。 1)「専門」では、以下に掲げる各専門分野の幅広い知識を修得する。 a)「メカトロニクス分野」では、機械工学、電気工学、産学連携工学、ロボティクスなどメカトロニクスに関する実践的な素養を養う。 b)「ソフトロボティクス分野」では、高機能社会に必要なクラウドネットワーク技術、センサ技術、ヒューマンインタフェース技術、知的制御技術などに関わる素養を養う。 c)「プロダクトデザイン分野」では、工業デザインを中心に幅広くデザインに関わる学修を通して理論および実践で高度なデザイン方法論を身につける。 d)「建築デザイン分野」では、都市から建築、インテリアに至る幅広い視野に立ち、文化とテクノロジーの両面をつなぐ包括的な建築知識を習得するとともに、プロジェクトの現場で活躍するための実践的な専門力を身につける。 2)「専門共通科目」では、修士の学位に相応しい研究遂行能力、ならびに高度な工学的課題解決に必要な基礎力とデザイン思考に関わる資質を向上させる。 3)「学際分野」では、高度専門職業人の基礎的な素養である日本語・英語を中心とした語学应用能力を養う。									
アドミッション ポリシー		ロボティクス&デザイン工学研究科は、ロボティクス&デザインセンターにおける産業界・行政などと与えられた実社会の課題解決を通じた実践的な研究開発活動を柱の一つとし、本研究科博士前期課程は、工学的な知識・技術を、人間中心の視点から活用し、持続可能で豊かな社会の実現に寄与する高度専門職業人材を育成します。そのために以下のような人物を求めます。 <求める人物像> (1)ロボティクス、インターネットを核としたネットワーク技術、建築学、インテリア・プロダクトデザイン学などの専門分野はもとより、人文・社会・自然科学その他の幅広い知識・教養を基礎として、柔軟で粘り強い思考力の礎を築いている人 (2)ロボティクス、インターネットを核としたネットワーク技術、建築学、インテリア・プロダクトデザイン学などの専門分野に関する体系的な学習内容を含む知識・技術を活用し、またデザイン思考を實踐し、人間中心の視点で社会などの課題を自ら発見し、他者との協力のもと、具体的な課題解決のプロセスをデザインできる人 (3)技術者としての倫理観、使命感を確立し、生涯に亘り学び続ける必要性を認識し、その姿勢を身につけている人 (4)的確な表現方法・技術を用いたコミュニケーション(英語によるコミュニケーション、視覚効果を検討したプレゼンテーションなどを含む)によって、自らの考えを伝え、他者の理解や共感を導き出せる人 (5)上記を基礎とし、更に専門分野の知識・技術を高め、イノベーションリーダーとして、持続可能で豊かな社会の実現に寄与する意思を持つ人									
ディプロマ ポリシー		4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究などを通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <ロボティクス&デザイン工学> (1)専門分野はもとより、人文・社会・自然科学その他の幅広い知識・教養を身につけ、生涯に亘って「考え続ける」ための柔軟で粘り強い思考力の礎を築き行ける。[幅広い知識・教養を修得し生涯学習を継続できる思考力] (2)専門分野に関する体系的な学習内容を含む知識・技術を活用し、具体的な課題解決のプロセスをデザインできる。[専門分野の知識・技術を活用する課題解決の過程デザイン] (3)ユーザの視点で社会などの課題に対し他者との協働により解決に取り組むことができる。[他者との協働によるユーザー視点の課題解決] (4)技術者としての倫理観、使命感を確立し、生涯に亘り学び続ける必要性を認識し、その姿勢を身につけ行動できる。[技術者としての倫理観・使命感に基づく行動力] (5)的確な表現方法・技術を用いたコミュニケーション(英語によるコミュニケーション、視覚効果を検討したプレゼンテーションなどを含む)によって、自らの考えを伝え、他者の理解や共感を導き出す。[相互に理解して共感を導くコミュニケーション] <空間デザイン学科> 空間デザイン学科では、ロボティクス&デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに加え、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A)デザイナーとして自然科学の素養や文化・芸術に関する知識を身につけるとともに工学的知識と思考力を備え、それらを活用できる。[身につけた教養を活用する思考力] (B)専門分野としての建築・インテリアデザイン分野はプロダクトデザイン分野の基礎と実践力をベースに協働で問題解決に取り組み、優れたデザインを創出できる。[具体的な提案へまとめ上げるデザイン実践力] (C)自らの発想などを的確に表現できるプレゼンテーション能力と、コミュニケーション能力を身につけ実行できる。[多様な情報をまとめ、端的に伝えるプレゼンテーション力] (D)広い視野に立ち、社会の中で、デザイナーとして責任ある行動をとることができる。[デザインを社会的に位置づける社会的実効力] (E)専門分野の技術の内容を体系的に理解し、PBLで養った実践的ものづくりから、グローバル社会に対応した価値あるデザインを創出し、豊かな社会の実現に貢献できる。[デザインの広がりや未来を考える展開力]									
分 野 別 到達目標		社会活動の基礎となる日本語(ラベラー)階級 な言葉・文法知識を身につけ、グロー バル化に対応可能なコミュニケーション能 力と実践力を身につけ、グローバル化に 対応可能なコミュニケーション能力を 身につける。[グローバル化に対応する コミュニケーション能力を身につける。] 専門科目を学ぶために必要な数学・ 物理の基礎的な知識を修得し、論理的思 考力を身につける。[技術者としての論 理的思考力を身につける。] (2) 確かな表現方法・技術を用いたコミュニ ケーション(英語によるコミュニケーション、 視覚効果を検討したプレゼンテーション などを含む)によって、自らの考えを伝え、 他者の理解や共感を導き出す。[相互に理 解して共感を導くコミュニケーション力]		「ユーザー中心の視点からイノベーション を創出する」という目的を達成するための 「デザイン思考」を実現できる。[幅広い知識・ 教養を修得し生涯学習を継続できる思考 力]を身につける。[技術者としての論 理的思考力を身につける。] (2) 確かな表現方法・技術を用いたコミュニ ケーション(英語によるコミュニケーション、 視覚効果を検討したプレゼンテーション などを含む)によって、自らの考えを伝え、 他者の理解や共感を導き出す。[相互に理 解して共感を導くコミュニケーション力]		すべてのデザイン分野に共通する、基礎的なデジタルスキル(コンピュータ技術および、空間的、立体的構想力や表現力を習得するとともに、これらを的確に運用する ための文化的、芸術的教養を身につける。		建築デザイン分野において必須となる、製図技術や表現技法を体得するとともに、 建築の設計や施工の際に求められる、計画理論や技術的知識について選択 する。		卒業に必要な単位数 124単位	
相当単位数合計		38 単位	28 単位	3 単位	14 単位	40 単位	37 単位	27 単位			
4	通年	(2~4年次) 哲学 (1)	(2~4年次) 倫理学 (1)	(1~4年次) グローバルテクノロジー論 a (1) グローバルテクノロジー論 b (1)	(2~4年次) ● ものづくりデザイン思考実践演習Ⅰ (2)	卒業研究 4		4 単位			
	4Q	倫理学 (1)	倫理学 (1)		● ものづくりデザイン思考実践演習Ⅱ (1)	● 必修科目 ● 選択必修科目		0 単位			
	3Q	倫理学 (1)	倫理学 (1)		プロダクトデザイン特別演習Ⅲ (1)	● 総合デザイン演習 2	都市環境デザイン 2	0 単位			
	2Q	倫理学 (1)	倫理学 (1)		プロダクトデザイン特別演習Ⅳ (1)	文化テクノロジー論 2	建築設計方法論 2	4 単位			
	1Q	倫理学 (1)	倫理学 (1)		プロダクトデザイン特別演習Ⅴ (1)	構造デザイン 2	建築設備 2	2 単位			
3	4Q	日本の文化と社会 (1)	日本の文化と社会 (1)			建築設備 2	空間デザイン演習Ⅳ 2	建築法規 2	プロダクトデザイン演習Ⅳ 2	デザイン史 2	4 単位
	3Q	日本の文化と社会 (1)	日本の文化と社会 (1)			構造デザイン 2	構造材料・構造実験 2	建築法規 2	プロダクトデザイン演習Ⅳ 2	ユーザビリティ工学 2	4 単位
	2Q	日本の文化と社会 (1)	日本の文化と社会 (1)			インテリアデザイン計画 2		建築法規 2	プロダクトデザイン演習Ⅳ 2		0 単位
	1Q	日本の文化と社会 (1)	日本の文化と社会 (1)					建築法規 2	プロダクトデザイン演習Ⅳ 2		0 単位
	4Q	日本の文化と社会 (1)	日本の文化と社会 (1)					建築法規 2	プロダクトデザイン演習Ⅳ 2		0 単位
2	4Q	近世建築史 2	近世建築史 2				近代建築史 2	建築施工 2	デザインマネジメント 2	製品プロデュース論 2	12 単位
	3Q	近世建築史 2	近世建築史 2				空間デザイン演習Ⅲ 1	西洋建築史 2	プロダクトデザイン演習Ⅲ 1	情報デザイン論 2	14 単位
	2Q	近世建築史 2	近世建築史 2				空間デザイン演習Ⅱ 2	建築環境工学Ⅱ 2	プロダクトデザイン演習Ⅱ 2	人間工学 2	6 単位
	1Q	近世建築史 2	近世建築史 2					建築計画Ⅱ 2	プロダクトデザイン演習Ⅱ 2	コンテンツ応用論 2	2 単位
	4Q	近世建築史 2	近世建築史 2					建築計画Ⅱ 2	プロダクトデザイン演習Ⅱ 2		0 単位
1	4Q	近世建築史 2	近世建築史 2				空間デザイン演習Ⅰ 2	建築環境工学Ⅰ 2	プロダクトデザイン演習Ⅰ 2		12 単位
	3Q	近世建築史 2	近世建築史 2					建築計画Ⅰ 2	プロダクトデザイン演習Ⅰ 2		6 単位
	2Q	近世建築史 2	近世建築史 2					建築計画Ⅰ 2	プロダクトデザイン演習Ⅰ 2		12 単位
	1Q	近世建築史 2	近世建築史 2					建築計画Ⅰ 2	プロダクトデザイン演習Ⅰ 2		10 単位
	4Q	近世建築史 2	近世建築史 2					建築計画Ⅰ 2	プロダクトデザイン演習Ⅰ 2		17 単位
分 野		共通教養科目	工学関連科目	その他 連携科目	専門横断科目	デザイン共通	空間デザイン系	プロダクトデザイン系	年間履修上限単位数 48単位		
カリキュラム ポリシー		<p>&lt;ロボティクス&amp;デザイン工学&gt;</p> <p>ロボティクス&amp;デザイン工学研究科は、ロボティクス&amp;デザインセンターにおける産業界・行政などと与えられた実社会の課題解決を通じた実践的な研究開発活動を柱の一つとし、本研究科博士前期課程は、工学的な知識・技術を、人間中心の視点から活用し、持続可能で豊かな社会の実現に寄与する高度専門職業人材を育成します。そのために以下のような人物を求めます。 &lt;求める人物像&gt; (1)ロボティクス、インターネットを核としたネットワーク技術、建築学、インテリア・プロダクトデザイン学などの専門分野はもとより、人文・社会・自然科学その他の幅広い知識・教養を基礎として、柔軟で粘り強い思考力の礎を築いている人 (2)ロボティクス、インターネットを核としたネットワーク技術、建築学、インテリア・プロダクトデザイン学などの専門分野に関する体系的な学習内容を含む知識・技術を活用し、またデザイン思考を實踐し、人間中心の視点で社会などの課題を自ら発見し、他者との協力のもと、具体的な課題解決のプロセスをデザインできる人 (3)技術者としての倫理観、使命感を確立し、生涯に亘り学び続ける必要性を認識し、その姿勢を身につけている人 (4)的確な表現方法・技術を用いたコミュニケーション(英語によるコミュニケーション、視覚効果を検討したプレゼンテーションなどを含む)によって、自らの考えを伝え、他者の理解や共感を導き出せる人 (5)上記を基礎とし、更に専門分野の知識・技術を高め、イノベーションリーダーとして、持続可能で豊かな社会の実現に寄与する意思を持つ人</p> <p>&lt;空間デザイン学科&gt;</p> <p>空間デザイン学科では、ロボティクス&amp;デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに加え、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A)デザイナーとして自然科学の素養や文化・芸術に関する知識を身につけるとともに工学的知識と思考力を備え、それらを活用できる。[身につけた教養を活用する思考力] (B)専門分野としての建築・インテリアデザイン分野はプロダクトデザイン分野の基礎と実践力をベースに協働で問題解決に取り組み、優れたデザインを創出できる。[具体的な提案へまとめ上げるデザイン実践力] (C)自らの発想などを的確に表現できるプレゼンテーション能力と、コミュニケーション能力を身につけ実行できる。[多様な情報をまとめ、端的に伝えるプレゼンテーション力] (D)広い視野に立ち、社会の中で、デザイナーとして責任ある行動をとることができる。[デザインを社会的に位置づける社会的実効力] (E)専門分野の技術の内容を体系的に理解し、PBLで養った実践的ものづくりから、グローバル社会に対応した価値あるデザインを創出し、豊かな社会の実現に貢献できる。[デザインの広がりや未来を考える展開力]</p>									
アドミッション ポリシー		<p>&lt;求める人物像&gt;</p> <p>(1)自然科学の素養や文化・芸術、デザインに関する知識と、ものづくりに関心を持つ人 (2)協働で問題解決に取り組むための、コミュニケーション力と持続力のある人 (3)異文化コミュニケーションへの理解と対応力を持つ人、グローバル化に対応できる人 (4)人間、社会、自然に広く関心を持ち、豊かな社会を実現するために貢献する意思のある人</p>									